山梨県総合教育センターだより　NO．85　2005.5

# 総合教育センターだより

CONTENTS



NO. 85

# 教育改革の本質

山梨県総合教育センター
所 長 武川 和彦

今年４月，新学習指導要領の定着度をみる教育課程実施状況調査（学力テスト）の結果が公表された。学力低下傾向と騒がれた前回に比べ，記述や思考力の弱さが克服されていないという問題点を抱えてはいるが，ほとんどの教科・学年でわずかながら改善がみられた。これは学校現場をあずかる教師の努力の成果が，徐々にではあるがでてきた結果ではないかと思う。

完全学校週５日制による授業時間数の減少，教育内容の削減，総合的な学習の時間の導入等により，学力低下の矛先は新学習指導要領や総合的な学習の時間に向けられることが多い。ＯＥＣＤの学習到達度調査，ＩＥＡの国際数学・理科教育動向調査をはじめとした教育課程実施状況調査などの数値に一喜一憂し，「数学が１位から６位に」,「読解力が８位から１４位に」,「学力低下が著しい。」などと，見かけの数値劇に踊らされ,本質論がなおざりにされている。数値はあくまでもめやすであって，それがすべてではないことを十分理解したいものである。新学習指導要領が実施されて今年でまだ３年である，結果がでるまでには少なくても１０年くらいは必要であることは誰しも承知のことである。

休みが増えた，内容が減った，授業時間が少ないと量だけに注目されて学力問題が話題となるが，新学習指導要領では教育の質の変革，すなわち「自ら学び，自ら考える児童生徒主体型の学習」,「現実社会と結びついた体験学習の導入」,「児童生徒が目標のもてる評価の工夫」,「ゆとり教育」,「教育内容の厳選」を目指したのではなかったのか。

「ゆとりの中で生きる力を育む」の“ゆとり”が，土曜日は休み，授業内容は減らして，遊ぶ時間を増やして，勉強はそんなにしなくて良いというように，ゆとりの意味が誤解されてしまい，“考えるゆとり，感じるゆとり”という本意が伝わらなかったように思う。学力だけが人間の生きる力のすべてではない，ましてや，学力だけで生きる力をおしはかることなど到底できない。新学習指導要領は，人間の見かけの力量（学力）だけを競う従来の教育から，人間としての総合的な力量をみようとしている。見直し論がまことしやかに囁かれる状況下で，学校現場としてやるべきことは，やっていることの確かな結果がでるまで今の努力を続けることである。本当の意味での教育改革の中心となり，旗手となれるのは，子どもたちと直接関わる教師であり，学校であることは言うまでもない。子どもたちは，パソコンやゲーム機，携帯電話を使わせたら大人もかなわない能力をもっている。それらの取扱説明書は教科書以上に分厚く，我々にとっては内容も難解であるが，子どもたちはろくに中を読まず，いとも簡単に扱ってしまう。興味・関心のあるものは黙っていても学習し，覚え，使いこなしてしまう証拠である。授業力，教師力，学校力の向上が叫ばれているが，教師に力があれば，授業時間数が多かろうが少なかろうが関係ない。要は，教師が本気で，熱意をもって教育に取り組み，子どもたちに現実社会における「生きる力」を付けるにはどうすればよいかを考え，そのための手だてを研究し，実践していくことであると思う。そんな学校現場を日常的に支援し，確かな情報発信源となれる総合教育センターを目指し努力していきたい。

# 平成１７年度　山梨県総合教育センター組織

所長　武川　和彦

副所長　塚越　武文・副所長　初鹿　義彦

参与　一瀬　一史

| 部 | 業務 | 職名 | 氏名 |
| --- | --- | --- | --- |
| 管理部<br>部長　赤沼　仁 | 所内の連絡調整<br>身分・服務・福利厚生<br>文書収受・発送・保管<br>会計経理・施設管理<br>物品調度・出納・保管 | 主査 | 望月　千景 |
| | | 副主査 | 石寺　昭子 |
| | | 主任 | 武井　和子 |
| | | 業務員 | 小林　美久 |
| | | 業務員 | 橘田　和彦 |
| | | 臨時職員 | 宮川　志保 |
| 教育指導部<br>部長　川込　一彦 | 研修全体運営・管理 | 副部長 | 赤池　和彦 |
| | 教育経営・研修統括主任 | 主幹研修主事 | 松永　辰美 |
| | 研修・総務・計画 | 主幹研修主事 | 清水甲子雄 |
| | 教科研修・教育課題 | 主幹研修主事 | 丸茂　一文 |
| | 教科研修・10年研修 | 主幹研修主事 | 遠藤　力 |
| | 指定研修 | 主幹研修主事 | 角田　修 |
| | 教育課題・5年研修 | 研修主事 | 橘田　誠 |
| | 研修運営・システム管理 | 研修主事 | 比志　秀樹 |
| | 研修・調査・広報 | 研修主事 | 雨宮　貴 |
| | 教科研修・初任者研修 | 研修主事 | 萩原　徹 |
| | 教科研修・初任者研修 | 研修主事 | 北川　俊明 |
| | 研修運営・システム管理 | 研修主事 | 大久保久美 |
| | 教科研修・10年研修 | 研修主事 | 金子　志麻 |
| | 研修 | ALT | ジョシュア |
| | 指定研修 | 非常勤嘱託 | 角田　喨子 |
| | 指定研修 | 非常勤嘱託 | 岡　美枝子 |
| 研究開発部<br>部長　飯窪　巧 | 主任・国語力向上研究推進 | 主幹研修主事 | 三井　誠 |
| | 教育課程実施状況調査推進 | 研修主事 | 坂本　幸男 |
| | 一般留学生研究推進・調整 | 研修主事 | 内田　淳 |
| | 主事研究推進・調整 | 研修主事 | 小松　裕子 |
| | 連携教育研修・主任補佐 | 非常勤嘱託 | 田代喜躬子 |
| 教育相談部<br>部長　廣瀬　晃<br>主幹　廣瀬　芳樹 | 面接・研修・研究 | 研修主事 | 太田　充 |
| | | 研修主事 | 渡邊　久樹 |
| | | 研修主事 | 吉田　恵子 |
| | | 研修主事 | 深沢ひろむ |
| | 電話相談 | 非常勤嘱託 | 佐野順一郎 |
| | | 非常勤嘱託 | 清水　禮子 |
| | 石和こすもす教室 | 副主幹 | 高橋　義美 |
| | | 非常勤嘱託 | 田草川　光男 |
| | | 非常勤嘱託 | 望月　香織 |
| | | 非常勤嘱託 | 須田　貴子 |
| | | 訪問指導員 | 跡部　一香 |
| | 韮崎こすもす教室 | 副主幹 | 古屋　仁 |
| | | 非常勤嘱託 | 新海　貞次 |
| | | 非常勤嘱託 | 高橋智恵子 |
| | | 非常勤嘱託 | 保坂　菜菜 |
| | | 訪問指導員 | 矢巻ゆき江 |
| | 都留こすもす教室 | 副主幹 | 中野　久男 |
| | | 非常勤嘱託 | 内藤　丈夫 |
| | | 非常勤嘱託 | 石井　治子 |
| | | 訪問指導員 | 滝口よし子 |
| | 電話相談（夜間）ホットライン | 非常勤嘱託 | 桑原　大石 |
| | | 非常勤嘱託 | 小林　匠 |
| | | 非常勤嘱託 | 宇野五千雄 |
| | | 非常勤嘱託 | 金井　幸則 |
| | | 非常勤嘱託 | 永井　達彦 |
| 特別支援教育部<br>部長　保坂　満 | 研修・教育相談 | 研修主事 | 飯田　秀輝 |
| | 調査研究・資料・情報の収集 | 研修主事 | 岡　輝彦 |
| | 教育相談・資料・情報の収集 | 非常勤嘱託 | 小澤　和恵 |
| | 教育相談・資料・情報の収集 | 非常勤嘱託 | 永井　達彦 |
| 情報教育部<br>部長　広瀬　勝 | 文書管理・情報管理委員会 | 副部長 | 平井　政幸 |
| | 相談指導・広報・調査 | 主幹研修主事 | 新津　元 |
| | 教材ライブラリ・教育情報部会 | 研修主事 | 原田　正明 |
| | 教育情報ネットワーク・HP管理 | 研修主事 | 村山　孝 |
| | 資料情報・eラーニング | 研修主事 | 小尾　勇司 |
| | 研究開発 | 研修主事 | 志村　恵治 |
| | ソフトウェア活用研究 | 研修主事 | 森田　亨 |
| | 研修 | 研修主事 | 秋山　聡 |
| | 研修・機器管理 | 研修助手 | 川崎　京子 |
| | 研修 | 非常勤嘱託 | 五味佐知子 |
| | 教育情報・教材ライブラリ | 非常勤嘱託 | 依田えり子 |

| 留学生 | |
| --- | --- |
| 専門 | 長谷部澄子 |
| 専門 | 山宮　将仁 |
| 専門 | 平山　昌実 |
| 専門 | 澤登　正仁 |
| 専門 | 丸茂　佳子 |
| 情報 | 名取　富幸 |
| 数学 | 長坂　俊彦 |
| 英語 | 本宮　知子 |
| 社会 | 宮本　和仁 |
| 教相 | 内田　敦子 |
| 教相 | 藤波　貴 |
| 英語 | 小林みずほ |
| 体育 | 山下　俊 |
| 特支 | 新谷　雅美 |
| 社会 | 青木　央 |
| 情報 | 越水　久也 |
| 算数 | 木内　寛 |
| 教相 | 根本　容子 |

| システムエンジニア | |
| --- | --- |
| SE | 末木　完治 |
| SE | 小林　賢 |

# 教職員の資質向上をサポートする研修を目指して　教育指導部

本センターの教育指導部は，教職員の資質・指導力向上や専門職意識の変革を図り，児童生徒にとって「楽しい授業」「わかる授業」を創造するための，経年研修・教科等研修・教育課題研修・教育相談研修及び特別支援教育・情報教育等の専門的な研修会を企画・実施します。

また，教育の今日的課題を把握し，各学校及び教育関係職員を支援するために必要な諸施策の立案を図ります。

（教育指導の部屋）

**業務内容**として，大きく分けると**「教育指導」**と**「業務推進」**（昨年度までの企画）に分かれます。

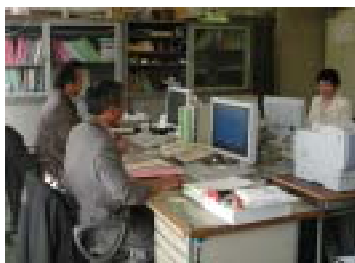
**教育指導**は，センター全体の研修会の企画と調整等を行います。研修は，悉皆研修，一般研修及び指定研修から成り立っています。

**業務推進**は，計画・調査・広報活動をはじめ留学生に関する事務及び指導等，センターの円滑な運営のための諸業務を行います。

**悉皆研修**には，初任者研修，５年経験者研修，１０年経験者研修と言われる経年研修と新校長研修をはじめとする教育経営研修があります。たとえば，悉皆といっても行政に校長相当として出向していた校長先生の場合は「新校長研修」を受講する対象者にはあてはまらず，教頭相当職から現場の教頭先生になられたような場合は，「新教頭研修」を受講して頂く等違いがありますので，こういう場合は「研修の手引き」等で確認する必要があります。

（業務推進の部屋）

**一般研修**には，従来から教科等の研修，環境・福祉教育などの教育課題研修，学校・家庭・地域の連携や今年度開館する博物館関係との連携教育研修があり，さらに今年度から経年研修として「期間採用教員研修」が新たに追加されました。

**指定研修**は，「指導力不足教員の資質向上」を目指すための研修です。この研修は平成１６年度からはじまり，今年で２年目になります。

以上，センターでは昨年度の研修を受講された方々のアンケートや現場からの声をもとに検討を加え，「現場に即したよりよい研修」「教職員一人一人の資質向上をサポートする研修」を目指していくつもりです。

（センター屋上から見た博物館）

また，情報教育棟１階「教材ライブラリ室」の入口に書籍・雑誌，主事研究論文・一般留学生研究論文，学習指導案，通信簿，各校研究主題等の展示や古いコンピュータの展示を行い，過去のデータの読替サービス等を行っております。是非，ご活用ください。

終わりになりましたが，４月１４日には新研究主任研修会終了後に「研修会申込み事務説明会」を開催いたしましたところ，現場から大勢の先生方にご参加いただき，ありがとうございました。これからも**「あなたの身近なセンター研修」**として鋭意努力して参りますので，よろしくお願いいたします。

# 教育実践に気軽に利用してもらえる調査･研究を目指して

**研究開発部**

本センターの研究は，学校の現状に即した今日的教育課題を把握し，調査・研究及び指導計画・指導方法等の研究・開発を推進し課題解決を図ります。さらに，研究成果を積極的に学校や先生方，関係教育機関等に提供することにより，本県学校教育の推進と充実に寄与していくことを目指します。そのためには，主事研究，特別研究（プロジェクト），一般留学生研究の３つの研究を通して実現を図ることを考えてます。

---

## ～平成17年度センターの研究　４つの柱～

### 1　主事研究

「基礎・基本の定着を図り，生きる力の育成を図る実践的な研究」を主事研究のテーマとし，やまなしの教育基本計画・指導重点さらに，先生方からの教育実践上の課題アンケートをもとに，１人１研究を原則として，研修主事が各自の研究主題を設定します。共通の課題のもとグループを構成して研究を行う主事もいます。

今，研修主事は「学校現場で活用してもらえる研究」をキーワードに，どのような研究を進めるか頭を悩ましているところです。２月２３日の研究発表大会で研究成果を報告しますのでご参加ください。

### 2　一般留学生研究

「学校での実践につながる研究」であることを最重要課題とし，教員としての資質や指導力の向上と県内教育のリーダーの育成を目指して，１３名の一般留学生がそれぞれの教科・領域ごと１年間の研究・研修に入りました。

４月８日に研究主題や研究内容について発表会をもち，研修主事から研究の方向性について意見をいただき，充実した会となりました。中には，研究内容を再検討する留学生もいました。主担当主事など支援グループの研修主事の先生方も決まり，月に２回の一般留学生研究日に指導を受けながら研究内容の方向性を固めようとしているところです。

### 3　国語力の向上プロジェクト

すべての教科の基本となる国語力の向上は，重要課題となっています。また，学校教育だけでなく，家庭や地域社会における言語環境を考えると，社会全体の課題として捉えていく必要があります。

この様な中，喫緊の課題に対応していく特別研究では，今年度「国語力の向上」に取り組むことにしました。研究開発部が主体となり県内外の先進校における国語力の向上に関する具体的実践などを収集し，資料として整理します。そして，学校現場に情報提供していくことで，国語力向上の実践に寄与していけたらと考えています。

### 4　教育課程実施状況調査

学力や学習意欲の低下が問題となる中，「確かな学力」の向上は学校教育の最重要課題といえます。

国語，算数・数学，英語の３教科（科目）と学習環境に関する質問紙を対象とし，県内の小・中・高校（抽出校）に教育課程実施状況調査の協力を依頼し，その結果について，誤答傾向などから分析・考察を行い，指導上の問題点や改善策を提示します。

結果の報告については，２月の研究発表大会で発表するとともに報告書（CD）にまとめ配付する予定です。

# “こころの元気”を支援します！　教育相談部

## 《 教育相談 》

子どもたちが，健やかで心豊かな生活が送れるように，困っていること，悩んでいることなどを電話や面接による相談を通して，共に考え問題の改善や解消を図ることができるように援助します。相談の対象は，幼児，児童，生徒，保護者（ご家族）及び教職員です。

悩みや不安を一人でかかえ込むと心の「元気やパワー」がなくなります。「元気やパワー」がすり減ってしまう前に，教育相談部へお気軽にご相談ください。

### 面接相談

本人･保護者の方などに教育相談室においでいただき，相談員がお話をうかがいます。

相 談 日　毎週月～金曜日
相談時間　午前9時～午後5時
（除く祝祭日）

※事前に電話で日時をご予約ください
電話：055－263－3711

### 電話相談
### いじめ･不登校ホットライン

電 話 ：055－263－3711
電話で相談員がお話をうかがいます。

相 談日　毎週 月 ～ 金曜日
（除く祝祭日）
相談時間　午前9時～午後10時
※午後10時～午前9時は留守番電話になります。

## 《 研修会 》

学校現場において「教育相談的考えや技法」を身に付け，子どもや保護者・同僚とより良い関係を築けるように，開発的・予防的教育相談の手法（構成的グループエンカウンター，チーム支援，楽しい学校生活を送るためのアンケート等）を学ぶための，次のような一般研修を開設しています。

また，センターのホームページ上で「e ラーニング」の研修を実施しています。学校教育相談基礎研修会を受講する前に，教育相談用語等の基礎知識をあらかじめ身につけてもらってから，参加していただこうというものです。「e ラーニング」は自分の好きな時間に研修できるメリットがあります。学校教育相談に関する基礎知識について理解を深めたい方はどなたでも利用できますので，気軽にご利用ください。

◎学校教育相談基礎研修会　（8月3･5･8･9日）
◎学校教育相談課題Ⅰ～Ⅷ研修会
（7月28日／8月1･4･5･8･9･18日／2月2日）

# 校内体制づくりを支援します！　*特別支援教育部*

今後の特殊教育の在り方と特別支援教育の理念が，平成１５年３月に公表されたことにより平成１５年度から特別支援教育推進体制モデル事業が実施されました。平成１７年度には，特別支援教育への取組が３年目を迎えます。

したがって，特別支援教育への移行を踏まえた調査研究，研修，教育相談，情報の収集及び啓発業務を行い，障害のある幼児・児童・生徒一人一人のニーズに応じた教育の充実を図ります。

また，平成１９年度までに小・中学校において通常の学級に在籍するＬＤ，ＡＤＨＤ，高機能自閉症等の児童生徒に対する校内支援体制の構築が求められていることから，校内体制づくりの支援も行います。

（教育相談の様子）

## 業務内容

### （１）調査研究

各校が抱える特別支援教育に関する課題を明らかにし，解決を図るための調査研究を行い，その成果をセンター研修及び校内研修会等に反映させ，学校支援に努めます。

### （２）研修

特別支援教育への移行を視野に入れた専門研修を企画・実施し，教職員の特殊教育や特別支援教育に関する資質向上を図ります。今年度は１５研修を実施します。

### （３）資料・情報の収集及び啓発

特別支援教育に関する最新の資料・情報を収集し，各校に提供することにより，特別支援教育を推進します。

### （４）教育相談

①来所相談（平日，午前９時～午後５時）
②訪問相談（実施日及び時間は同上）
③巡回教育相談（9地区１４会場）
④電話相談（平日，午前９時～午後５時）

相談内容

ア　子育てをするうえで悩んでいること
イ　就学や進学等に関すること
ウ　療育に関すること
エ　学校や幼稚園等での具体的な指導法に関すること
オ　子どもを理解する手だてに関すること

### （５）ＬＤ等専門家チーム巡回相談

ＬＤ等専門家チームと連携し，ＬＤ，ＡＤＨＤ，高機能自閉症等の児童生徒のための巡回相談を行います。

**相談予約，問い合わせ**

電話　０５５－２６３－４６０６

# 多くの先生方が情報活用能力を高め，子どもたちを指導できる力量を　情報教育部

高度情報通信社会が進展している時代状況のなかにあって，教育の情報化も飛躍的に進行中です。教育の情報化とは，全国の「すべての学校」がインターネットに接続され，「すべての教室」の「すべての授業」において「すべての教員」がコンピュータやインターネットを活用できる状況として定義され，各教科の授業をコンピュータやインターネットを道具として活用することを通して，子どもたちに情報活用の実践力，情報の科学的理解，情報社会に参画する態度，すなわち「情報活用能力」をしっかりと身に付けさせ，自ら学び自ら考える力を育成することが目標とされています。そのために教師自身がＩＴを効果的に活用して「わかる授業」を積極的に展開することが求められてきました。

新学習指導要領のもとでの教育課程が始まり，小・中学校では４年目，高等学校では３年目を迎え，総合的な学習の時間や各教科で情報通信ネットワークを活用した取り組みや，新設された教科「情報」等の実践も積み上げられています。

平成１５年度から２カ年計画で実施した「コンピュータで指導できる教員養成講座」（パソコン特別研修Ⅲ）では，授業のなかでコンピュータを使って指導できる教員１００％を目指して，延べ３１３日の研修が行われました。県下全教員の約三分の一に当たる２,２００名が受講し，指導できる教員の比率も全国平均を上まわり大きな成果となっています。

また，昨年は佐世保市における事件が発生したなかで，情報モラルの重要性や啓発・対応策に本センターでは迅速な取り組みをとることができましたが，情報化社会のなかで生まれ育った子どもたちの実態を親や教師が把握できず「知らない世界」になっている問題点もあげられ，我々教員側もそれに対処できる力量アップの必要性が指摘されています。

＜新しい環境のなかでの研修を＞

昨年度末に第１パソコン室および第２パソコン室のコンピュータと周辺機器，デジタルカメラを新しく更新いたしました。より快適な環境のもとでの研修により，さらなる情報活用能力アップをしていただきたいと期待しています。

学校教育の大きな課題である確かな学力を育むため，わかる授業の実現に向けて，ＩＴを有効に活用した教材作成や開発研究の視点を特に重要視し，研修も学校現場や授業での活用により重きを置いた内容での充実を目指しています。

（新装されたパソコン室）

研修会の枠組を基礎系，活用系，情報推進系の３つに分け，各講座の実施時期や内容を考慮しながら，より多くの先生方が受講しやすいよう運営体制を整備しました。特に，基礎系は会場をセンターばかりでなく，各会場のご支援・ご協力をいただくなか，石和，山梨，甲府東，甲府西の各高等学校のコンピュータ室を借用して実施する日程で計画しています。実際に学校現場で行う研修でもあり，実践的な感覚で受講できるものと期待しております。

☆　教材ライブラリにおける各種教育用ソフトウェア，ＶＴＲ，図書，雑誌等を収集整理して，データベースからの検索をはじめ, 来所者の閲覧や利用支援を行っています。ご利用ください。

☆　公的機関の情報教育研修会などにおいて，本センターの業務に支障のない範囲でパソコン室を貸与して活用いただいています。

☆　各先生方が開発したＷｅｂ教材やeラーニング教材などＩＴを活用した授業実践・各教材などを募集しています。収集した実践や教材は，公開し広く学校現場での利用を図る予定です。

# センター留学生となって

## 信頼に応えるために

専門留学生代表　　長谷部　澄子

我々の入所を待っていてくれたかのように桜の花が咲き誇る中で，留学生生活が始まりました。子どもの姿が見られない，声が聞こえない生活に，一抹の寂しさを感じる今日この頃ですが，どうにか総合教育センターの生活にも慣れてきました。

本年度，５名の専門留学生が次の３点について研修を行っています。

1　研修会の運営を通した研修

運営補助員として，初任者研修・１０年経験者研修・教育経営研修・教育課題研修・教育相談研修・連携教育研修などの運営の研修を行うとともに，自らも研修会へ参加し，資質の向上を図る。

2　個人の研修計画に基づいた研修

次の５点に主眼を置いて，個人の研修計画を作成し，一年を通して研修を進める。

○　コンピュータ・リテラシーを高め，本県の教育の情報化推進者として学校教育の改善充実に寄与できる。

○　カウンセリング能力を高め，開発的・予防的教育相談が適切に行える。

○　学習障害児等に対して適切な支援を行える。

○　担当教科の専門性を高める。

○　幅広い教養・知見を習得し，児童生徒や保護者から信頼される教員をめざす。

3　資料の収集・整理を通した研修

本センターに送られてくる資料や，本センターで行われる研究に必要な資料の収集・整理を主な対象とする。

「ゆとり教育」の見直しが，叫ばれる中，めまぐるしい速さで，様々な教育改革が進行しています。教育活動に対する社会の要求も複雑多岐なものとなってきています。

この一年間，上記の研修を進めて，児童生徒，保護者，地域の信頼にこたえるべく力量を高め，資質・能力の向上に努めたいと思います。

## 胸をはって
## 子どもたちの前に立つために

一般留学生代表　長坂俊彦

桜の便りが終わりを告げ，桃の花にバトンタッチしたと思う間もなく，気がつけば季節は萌黄の頃を過ぎ，緑もその濃さを一段と増していました。この２ヶ月は慌ただしさの中，足早に過ぎていきました。しかし，その慌ただしさは今までのそれとはまったく違うものでした。

新しい年度のスタート。そこにはいつも笑顔の子どもたちがいました。それが毎年当たり前のように繰り返されていました。４月当初は，その当たり前が変わったことへの戸惑いや寂しさも感じました。しかし，これから始まる研修生活への期待はそんな思いを打ち消してくれるのに十分なものでした。さらに，共に学ぶ１２名の留学生という仲間がいること，互いに励ましあい，学びあえる仲間がいることは，ここセンターでの研修ならではのものであり，心強さを感じています。

これからの研修生活には２つの期待があります。まず１つ目は，自分で決めたテーマや自分のやりたいことに思いきり時間をかけられるということ。すでにこの２ヶ月の間に，多くの文献を読み，実践例を調べることができました。そのことに充実感と幸せを感じています。２つ目は，学校・教育という枠にとらわれず，視野・見聞を広げ，一人の人間として自分を磨く機会にしたいということです。自分をより豊かにすることは，この先，教師として子どもたちにより良いものを与えてあげる素地となるものと信じます。

私たちは「研修生」から「留学生」に名称が変更されての第一期生となります。新たに４月に研究テーマ発表会が行われ，所長をはじめ多くの主事の方々からご指導していただくことができました。それにより研究の方向付けができ，スムーズに研修生活のスタートを切ることができました。

これからは２月の発表会に向け，与えていただいた一年間という時間を大切にし，真摯な態度で研修に臨む決意です。そして，来年の４月に学校現場に戻った時には，今まで以上に胸を張って子どもたちの前に立てる教師となれるように努力してまいりたいと思います。

# センターからのお知らせ

## 「国語力の向上」特別研修会

「これからの時代に求められる国語力について」は，今や教育に携わる人々にとって共通の重要課題となっています。そこで，杏林大学外国語学部教授，**金田一秀穂先生**をお招きしての講演会を，次のとおり特別研修会として実施する運びとなりました。

先生はテレビ等の出演も多く，ユニークな視点で日本語教育に関し，様々な提言をなさっています。せっかくの機会ですので多くの先生方の受講をお待ちしています。

日時：６月２５日（土）午後１時３０分
場所：総合教育センター大研修室
申し込み方法
①総合教育センターホームページ
②ＦＡＸ（０５５）２６２－８７３１

## *出前研修<アウトリーチセミナー研修>をご活用ください*

センターでは，情報教育研修の一つとしてアウトリーチセミナーを実施しています。

この研修は，各学校が希望する内容（例えば，表計算ソフトの使い方など）について，専門の講師が学校を訪問して行う研修です。平日の午後２回行うことが原則です。

学校の情報化のために，また，パソコンを道具として使い，楽しく分かりやすい授業を行うためにこの研修をご活用下さい。詳細については，センターホームページの研修情報をご覧下さい。

## *センターホームページアドレス変更のお知らせ！*

センターのホームページアドレスが，
http://www.kai.ed.jp　から
http://www.ypec.ed.jp　に
変わります。

これまで使用していたアドレス（kai.ed.jp）は，山梨県教育情報ネットワーク（通称：ハイユースネット）のホームページになります。リンクしていますのでどちらからでも入れますが作業が増えます。センターのアドレスが先生方に早く馴染んで頂けるよう願っています。

# こすもす教室

**学校・家庭との連携のもと，不登校児童・生徒の集団適応や学習の補充について援助・指導することにより，自立心を養い，再登校する意欲を高めることを目指しています。家庭に引きこもりがちな児童・生徒のための訪問指導も行っています。**

**■対象**　小学校５・６年生と中学生
**■場所**
○石和こすもす教室　笛吹市石和町市部５２４
ＴＥＬ　０５５－２６１－１２７１
○韮崎こすもす教室　韮崎市若宮町２－６－１２
ＴＥＬ　０５５１－２２－１１３３
○都留こすもす教室　都留市田野倉１３３１－１
ＴＥＬ　０５５４－４５－１１６１
**■開設時間**　月曜日から金曜日　午前９時から午後４時

# 人事異動のお知らせ

## 平成１６年度末　転出者

| 氏　名 | 職　　名 | 新任校等・職名 |
|---|---|---|
| 富田　信綱 | 副所長 | 退職 |
| 日原　　正 | 管理部長 | 退職 |
| 伊藤　宗範 | 教育指導部長 | 身延町立身延中学校 校長 |
| 津金　　猛 | 教育相談部長 | 山梨市立八幡小学校 校長 |
| 雨宮　一夫 | 教育指導部主幹研修主事 | 甲府市立甲府商業高等学校 校長 |
| 田中　英志 | 教育指導部主幹研修主事 | やまびこ養護学校 校長 |
| 杉田　和孝 | 教育指導部研修主事 | 県教委高校教育課 主幹指導主事 |
| 三枝　　正 | 教育指導部研修主事 | 富士河口湖高等学校 教頭 |
| 堀内　　浩 | 教育指導部研修主事 | 塩山市立塩山中学校 教頭 |
| 清水　和子 | 研究開発部主幹研修主事 | ふじざくら養護学校 校長 |
| 福岡　哲司 | 研究開発部主幹研修主事 | 県立図書館 館長 |
| 佐藤　邦彦 | 情報教育部研修主事 | 県立図書館 副主幹 |
| 志村　　昭 | 情報教育部研修主事 | 中道町豊富村中学校組合立笛南中学校 教諭 |
| 三井　　智 | 情報教育部研修主事 | 韮崎工業高等学校 教諭 |
| 菱山　憲治 | 情報教育部研修主事 | 笛吹市立御坂西小学校 教諭 |
| 雨宮千鶴子 | 管理部主査(ﾘｰﾀﾞｰ) | 峡東地域振興局健康福祉部保健福祉企画課主査 |
| 渡辺　千明 | 管理部副主査 | 釜無川流域下水道事務所 副主査 |
| 長田　良英 | 管理部主任業務員 | 県立文学館 主任業務員 |
| 山中　長壽 | 韮崎適応指導教室副主幹 | 北杜市立泉中学校 教頭 |
| 渡邊　　博 | 管理部非常勤嘱託 | 退職 |
| 有泉　　淳 | 教育指導部非常勤嘱託 | 退職 |
| 佐野順一郎 | 教育指導部非常勤嘱託 | 退職 |
| 山田　順子 | 特別支援教育部非常勤嘱託 | 退職 |
| 塚越みはる | 情報教育部非常勤嘱託 | 退職 |
| 輿水　　豊 | 韮崎適応指導教室非常勤嘱託 | 退職 |
| 小清水めぐみ | 韮崎適応指導教室非常勤嘱託 | 退職 |

## 平成１７年度　転入者

| 氏　名 | 職　　名 | 旧任校等・職名 |
|---|---|---|
| 赤沼　　仁 | 管理部長 | 峡中地域振興局企画振興部財務審査監 |
| 廣瀬　　晃 | 教育相談部長 | 県教委義務教育課 主幹 |
| 望月　千景 | 管理部主査(ﾘｰﾀﾞｰ) | 看護大学事務局　　副主査 |
| 石寺　昭子 | 管理部副主査 | 総務部私学文書課 主任 |
| 小林　美久 | 管理部業務員 | 石和高等学校 業務員 |
| 橘田　和彦 | 管理部業務員 | 文学館 業務員 |
| 角田　　修 | 教育指導部主幹研修主事 | 県教委義務教育課 指導主事 |
| 丸茂　一文 | 教育指導部主幹研修主事 | 都留高等学校 教頭 |
| 遠藤　　力 | 教育指導部主幹研修主事 | 甲府昭和高等学校 教頭 |
| 北川　俊明 | 教育指導部研修主事 | 甲斐市立竜王北中学校 教諭 |
| 三井　　誠 | 研究開発部主幹研修主事 | 富士河口湖高等学校 教頭 |
| 小松　裕子 | 研究開発部研修主事 | 市川高等学校 教諭 |
| 渡邊　久樹 | 教育相談部研修主事 | 韮崎工業高等学校 教諭 |
| 深澤ひろむ | 教育相談部研修主事 | 甲府養護学校 養護教諭 |
| 新津　　元 | 情報教育部主幹研修主事 | 日川高等学校 教頭 |
| 原田　正明 | 情報教育部研修主事 | 甲府西高等学校 教頭 |
| 小尾　勇司 | 情報教育部研修主事 | 市川高等学校 教諭 |
| 志村　恵治 | 情報教育部研修主事 | 上野原市立巌中学校 教諭 |
| 森田　　亨 | 情報教育部研修主事 | 南アルプス市立甲西中学校 教諭 |
| 古屋　　仁 | 韮崎適応指導教室副主幹 | 北杜市立高根清里小学校 教諭 |
| 角田　喨子 | 教育指導部非常勤嘱託 | 元御坂西小学校長 |
| 岡　美枝子 | 教育指導部非常勤嘱託 | 元御坂中学校長 |
| 保坂　菜菜 | 韮崎適応指導教室非常勤嘱託 | 採用 |

## 平成１７年度専門留学生

| 氏　名 | 教科領域等 | |
|---|---|---|
| 長谷部澄子 | 専門 | 甲府養護学校教頭 |
| 山宮　将仁 | 専門 | 堀之内小学校教諭 |
| 平山　昌実 | 専門 | 塩山中学校教諭 |
| 澤登　正仁 | 専門 | 笛川中学校教諭 |
| 丸茂　佳子 | 専門 | 富竹中学校教諭 |
| 名取　富幸 | 情報教育 | 一宮北小学校教諭 |
| 長坂　俊彦 | 数学 | 山梨南中学校教諭 |
| 本宮　知子 | 英語 | 玉宮小学校教諭 |
| 宮本　和仁 | 社会 | 御坂西小学校教諭 |
| 内田　敦子 | 教育相談 | 田富北小学校教諭 |
| 藤波　　貴 | 教育相談 | 牧丘第二小学校教諭 |
| 小林みずほ | 英語 | 山梨小学校教諭 |
| 山下　　俊 | 体育 | 富士見小学校教諭 |
| 新谷　雅美 | 特別支援教育 | 後屋敷小学校教諭 |
| 青木　　央 | 社会 | 石田小学校教諭 |
| 越水　久也 | 情報教育 | 田富小学校教諭 |
| 木内　　寛 | 算数 | 増穂小学校教諭 |
| 根本　容子 | 教育相談 | 北富士工業高校教諭 |

## 編集後記

平成１５年度から，進められてきた組織再編も３年目を向かえました。紙面にも各部の特色がより一層随所に現れていると思います。

基礎・基本の充実，学力低下，学校・学習評価等，教育を取り巻く課題は多様です。所員一同このような課題に対応できるセンターを目指しています。ご意見をお寄せください。

編集発行　山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田１４５６
電話　０５５－２６２－５５７１(代)
発行責任者　所長　　武川　和彦
発　行　日　平成１７年５月３０日